

平成 28 年（2016 年） 4 月 25 日

市 議 会 議 員 様

政策推進部渉外担当部長
経 済 部 観 光 担 当 部 長
教 育 総 務 部 長

旧軍港四市が日本遺産に認定されました！

日本の中で唯一、軍港、鎮守府が置かれたまちとしての歴史を有する旧軍港四市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）では、独自の都市発展過程とともに、日本の近代化を推進し、独自の海軍文化を育んだというまちの歴史を共通のストーリーにまとめ、日本遺産の共同申請を行いました。

この度、文化庁の「日本遺産審査委員会」の審査を経て、旧軍港四市によるストーリーが日本遺産に認定されましたので、お知らせします。

1 認定自治体 横須賀市、◎呉市、佐世保市、舞鶴市（◎は代表市）

2 認定タイトル 「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴
～日本近代化の躍動を体感できるまち～」

3 ストーリーの骨子

- 明治期の日本は、近代国家として海防力を備える必要があったため、国家プロジェクトにより天然の良港 4 か所に軍港を築き、鎮守府を置いた。
- 静かな農漁村に人と先端技術が集まり、独自の都市形成の歩みの中で軍港都市が誕生し、日本の近代技術が育まれた。
- 日本の近代化を推し進めた四市には、海軍由来の食文化もまちに浸透し、多種多様な数多くの近代化遺産とともに、躍動した往時の姿を体感できる。

4 認定日 平成 28 年 4 月 25 日

5 今後の対応

日本の近代化の歴史を物語る遺産の活用や環境整備等に四市連携して取り組むとともに、国内外への積極的な情報発信を通じ、まちの賑わい創出，地域活性化に取り組めます。

6 その他

平成 28 年度日本遺産認定状況 申請件数 67 件 認定件数 19 件

（補足：日本遺産について）

- ・文化庁所管事業で，地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として認定し，ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組みへの支援制度
- ・平成26年度に制度が創設され，今回は2回目の募集となる。平成32年（2020年）までに全国で100件程度が認定される予定

《事務担当》

（旧軍港四市間の連絡調整に関する事務）

政策推進部基地対策課 内線 1375 直通 046－822－8139

（日本遺産を活用した今後の対応に関する事務）

経済部観光企画課 内線 2480 直通 046－822－9397

（日本遺産ストーリー、構成文化財に関する事務）

教育委員会生涯学習課 内線 3650 直通 046－822－8481

～日本近代化の躍動を体感できるまち～

軍港都市 横須賀・呉・佐世保・舞鶴

1. ストーリーの概要



横須賀港



呉 港



佐世保港



舞鶴港

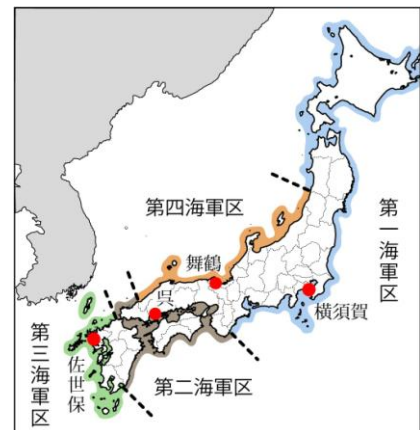
明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。

2. ストーリーの詳細

(1) 四市の地勢と軍港の設置

富国強兵、これは明治新政府が近代国家を建設するために掲げたスローガンの一つで、その強兵の一翼を担ったのが海軍です。明治政府は西欧列強と対等に渡り合うために、艦艇の配備を進めるとともに、明治17年(1884年)、横須賀に鎮守府を置いた後、同22年に呉と佐世保、同34年に舞鶴で鎮守府を開庁し、島国日本の周辺海域を分割して管轄する海の防衛体制を確立しました。

この鎮守府とは軍港に置かれた海軍の本拠地であり、各海



海軍区と鎮守府の位置

軍区を防備し、海軍工^{こうしやう}廠（艦艇の建造・修理、兵器の製造）や海軍病院、軍港水道等、多くの施設の運営・監督を行いました。

艇部隊の統率には鎮守府司令長官があたりました。

四つの軍港は、急峻な山に囲まれ、外敵の侵入を拒む湾口、艦艇の航行・停泊が自在にできる湾内、水深の深い穏やかな入江など、厳しい地勢条件を満たして選定されました。軍港の建設から 100 年以上が経過し、艦艇こそ現代のものに変わりましたが、港のドックや埠頭^{ふとう}、林立するクレーン、その界限^{かいがい}に建ち並ぶれんが倉庫、港に集まる鉄道・水道・通信施設、港から広がるまち並み、港を守る丘の上の要塞^{ようさい}跡など、軍港を中心とする特有の景観は今ではすっかりそれぞれのまちの顔になっています。



スチームハンマー0.5t 片持型

横須賀製鉄所設置 1865 年オランダ製

（２）日本の近代技術を結集し、その技術を育んだ軍港

海軍には常に最先端の工業技術や設備が投入されましたが、それを吸収し広く伝え、次の世代へと受け継ぐ力も必要でした。こうした技術力を推進する姿勢は、横須賀海軍工廠の前身となる横須賀製鉄所にそのルーツが見られます。フランスの技術指導により西欧から最新の造船機器を導入し、鉄製部品から建築用れんがに至るまで必要なものは全て同製鉄所で生産する体制を短期間に整えました。それとともに、技術教育学校「^{こうしや}鑿舎」を開校し、日本人の技術力の向上を図りました。

この技術力の向上を現在に伝えるものに横須賀製鉄所・同造船所のドックがあります。１号ドック（日本最古の石造ドック）はフランス人による建設ですが、３号（現２号）ドックは鑿舎で学んだ技術者が日本人として初めて建設しました。横須賀で培われた技術は呉へ、呉から佐世保・舞鶴へ、さらには民間企業へと移転を繰り返す中で飛躍的な発展を遂げ、呉における職^{しやう}工教習所、技手養成所などの人材育成の充実にもつながっていきます。海軍から生まれた近代造船技術は、横須賀での軍艦清輝（897 t）建造に始まり、わずか 60 年余りの間に呉における世界最大の戦艦大和（65,000 t）の建造に至り、その集大成を迎えます。

また、今でこそ鉄筋コンクリート造は一般的な建築工法ですが、明治後期にはれんが造に代わる最新の技術として迎えられました。建築物としては佐世保海軍工廠^{まかないじよ}貯^{きかんしつ}所・汽罐室が始まりですが、明治 41 年に完成した横須賀の走^{はしりみず}水水源地浄水池が、現存最古級の建築としてその初期の技術を伝えます。さらに、大正 11 年に完成した佐世保の針尾送信所（高さ 136m の塔 3 基）は、他に類を見ない日本最大の通信塔として、その技術の到達点と言えます。



針尾送信
（旧佐世保無線電信所施設）1922 年

（３）軍港都市の形成とその特徴

四市はもともと半農半漁の静かな寒村でした。ここに国の関与のもと、最新の技術と巨額の予算が短期間に集中的に投入され、急速かつ計画的に軍港都市づくりが進められました。この点に軍港都市の形成上の大きな特徴と独自性があります。

中でも、四市の水道が軍港水道として発達し、その後市民に供給された歴史が特筆されます。横須賀では走水と半原の2系統の水道があり、後者は神奈川県北部の相模川支流から高低差70mを利用して53kmを自然流下させる無類の通水システムで、10年の歳月をかけ大正10年に完成しました。また、呉では、鎮守府開庁の翌年には全国で3番目の早さで近代的な水道施設を開設し、大正7年には長さ97m、高さ25mの当時東洋一の規模を誇った本庄水源地堰堤水道施設が完成しました。重厚で壮大な規模の水道施設の建設は、艦艇への給水や工業用水として、どれほど水は重要であったかを証明しており、軍港への水の安定供給が実現したことで市民生活へも潤いを与えることになりました。



呉市本庄水源地堰堤水道施設 1920年

また、陸上交通の整備にも特徴があります。四市は海路の利便性とは裏腹に陸路には難があったため、鎮守府開庁に伴い幾多のトンネルや鉄橋を建設して鉄道を敷設しました。これにより人と物資の輸送を促してまちの発展を加速させました。全国からの急激な人口流入も四市共通の現象で、鎮守府に通じる幹線道路を中心に、機能的で発展性のある碁盤目状の市街地を形成しました。その結果、佐世保では鎮守府開庁前3千8百人程の人口が、約20年で13倍の5万人を超えるほどの人口増加に対応できました。

このように水道・鉄道・市街地等の都市基盤の整備は、市民の生活を支え、軍港都市をつくっていきました。明治12年から同38年まで刊行された横須賀明細式覧図などの絵図は、軍港の発展と共にまちが広がっていく様子をいきいきと描いています。また、舞鶴では、碁盤目状の市街地の街路に、当時活躍した八島、敷島、三笠など大小33の艦艇名を名付けま



横須賀明細式覧図

した。明治35年の命名以来、軍港都市としての自信と誇りが伺えます。

(鎮守府開庁後の明治18年版、個人蔵)

軍港がまちにもたらしたのは、先端技術や都市基盤の整備ばかりでなく海軍由来の食文化もあります。明治41年に舞鶴海兵団が発行した『海軍割烹術参考書』には100種類以上の洋食の詳細なレシピが掲載されています。カレーや肉じゃがなどは、海軍が脚気予防として採用した洋食を日本人の口に馴染むように改良したものでした。

近代日本の海防の要として共に歩んだ横須賀・呉・佐世保・舞鶴の四市。西欧の先端技術を導入し、その技術を伝え、さらに新たな技術を創り出し、技術力を高め合うことで日本の近代化を推し進めました。軍港建設により一躍、近代都市へと変貌を遂げた証となる石・れんが・鉄・コンクリートの数多くの軍港関連遺産の中には、現在でも稼働する施設が多くあり、当時の技術水準の高さを伺い知ることができます。

軍港そして鎮守府が置かれたまちの歴史を共有し、その歴史を体感できるのは日本の中でこの4か所だけです。どこか懐かしくも逞しい往時の姿を残しつつ、日本の近代化に向けて躍動した軍港都市は、訪れる人々を惹きつけてやまないでしょう。



舞鶴市立赤れんが博物館

(旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫) 1903年

ストーリーの構成文化財一覧表

神奈川県横須賀市

番号	文化財の名称
1-1	米海軍横須賀基地 C 1 建物（旧横須賀鎮守府庁舎）
1-2	米海軍横須賀基地 C 2 建物（旧横須賀鎮守府会議所・横須賀海軍艦船部庁舎）
1-3	米海軍横須賀基地 B 39 建物（旧横須賀海軍工 廠庁舎）
1-4	海上自衛隊横須賀地方総監部田戸台分庁舎（旧横須賀鎮守府司令長官官舎）
1-5	逸見波止場衛門
1-6	東京湾要塞跡 猿島砲台跡・千代ヶ崎砲台跡
1-7	観音崎・走水地区の砲台群 観音崎砲台跡・三軒家砲台跡・走水低砲台跡
1-8	東京湾第三海堡構造物 兵舎・観測所・探照灯 砲側庫
1-9	「ヨコスカ製鋳所」 「ヨコスカ造船所」 刻印れんが
1-10	スチームハンマー（旧横須賀製鉄所設置）1865 年オランダ製 0.5 トン片持型・3 トン門型
1-11	米海軍横須賀基地ドライドック 1～6 号 （旧横須賀製鉄所・造船所・海軍工 廠第一～第六号船渠）
1-12	近代造船所建築図面資料 230 点
1-13	走水水源地 煉瓦造貯水池 鉄筋コンクリート造浄水池
1-14	逸見浄水場 緩速ろ過池調整室 4 棟 配水池入口 2 棟、 ヴェンチュリーメーター室 1 棟
1-15	七釜トンネル
1-16	横須賀港周辺の絵図

ストーリーの構成文化財一覧表

広島県呉市

番号	文化財の名称
2-1	旧呉鎮守府司令長官官舎
2-2	呉市入船山記念館休憩所（旧東郷家住宅離れ）
2-3	海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）及び地区内のレンガ建物群
2-4	呉市水道局二河水源地取入口 <small>にこう とりいれぐち</small>
2-5	本庄水源地堰堤水道施設 堰堤、丸井戸、第一量水井、階段 <small>えんてい りょうすいせい</small>
2-6	呉市水道局宮原浄水場低区配水池 <small>ていくはいすいち</small>
2-7	アレイからすこじま（旧呉海軍工廠本部前護岸及び関連施設）
2-8	旧呉海軍工廠塔時計（呉市入船山記念館内）
2-9	昭和町レンガ倉庫群 （株）ダイクレ呉第二工場亜鉛メッキ工場（旧呉海軍工廠砲煩部精密兵器工場） 呉貿倉庫運輸（株）8号倉庫ほか（旧呉海軍工廠造兵部大砲庫など） <small>ほうこうぶ</small>
2-10	呉市入船山記念館旧高鳥砲台火薬庫 <small>たかがらす</small>
2-11	呉湾（広湾）を守る砲台群 高鳥砲台跡、大空山砲台跡
2-12	呉軍港全図（呉市入船山記念館所蔵）
2-13	ジャパン マリンユナイテッド（株）呉事業所大屋根（旧呉海軍工廠造船部造船船渠大屋根） <small>せんきょ</small>
2-14	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）の所蔵資料 戦艦「大和」設計図面、10分の1戦艦大和、巡洋戦艦「金剛」搭載のヤーロー式ボイラー、 戦艦「大和」型150センチ探照灯反射鏡、零式艦上戦闘機六二型など
2-15	旧呉海軍工廠海軍技手養成所跡と周辺の海軍遺構 <small>ぎて</small>
2-16	長迫公園（旧海軍墓地）
2-17	歴史の見える丘

ストーリーの構成文化財一覧表

長崎県佐世保市

番号	文化財の名称
3-1	旧佐世保無線電信所施設（針尾送信所）
3-2	佐世保市民文化ホール（旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館）
3-3	西九州倉庫(株)前畑 1 号倉庫（旧第五水雷庫）
3-4	岡本水源地
3-5	山ノ田水源地
3-6	立神係船地（旧修理艦船繫留場）
3-7	佐世保重工業(株) 2 5 0 トンクレーン
3-8	佐世保重工業(株) 第 5、第 6 ドック
3-9	赤崎貯油所旧地下重油槽
3-10	庵崎貯油所地下重油槽
3-11	佐世保要塞及び関連施設
3-12	平瀬煉瓦倉庫群
3-13	立神煉瓦倉庫群
3-14	前畑火薬庫
3-15	南風崎トンネル
3-16	清水の瀬橋梁
3-17	佐世保鎮守府水道施設群
3-18	佐世保市水道局水道施設群

3-19	干尽倉庫群
3-20	九州旅客鉄道(株)鉄道施設群
3-21	松浦鉄道(株)鉄道施設群
3-22	海軍防備隊、警備隊砲台群
3-23	佐世保重工業(株)佐世保造船所（旧佐世保海軍工廠）施設群
3-24	佐世保鎮守府庁、海兵団関連施設群
3-25	佐世保鎮守府関連記念碑群
3-26	東山公園（旧海軍墓地）
3-27	吉村長策関連史料群

ストーリーの構成文化財一覧表

京都府舞鶴市

番号	文化財の名称
4-1	舞鶴赤れんがパーク 1 号棟～5 号棟 (舞鶴旧鎮守府倉庫施設 魚形水雷庫、予備艦兵器庫、弾丸庫並小銃庫、雑器庫並預兵器庫、第三水雷庫)
4-2	旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫(舞鶴旧鎮守府倉庫施設需品庫)
4-3	海上自衛隊舞鶴補給所No.2、No.3、No.4、No.17 倉庫 (旧舞鶴鎮守府衣糧庫被服庫、第三被服庫、軍需部第一需品庫)
4-4	海上自衛隊舞鶴地方総監部会議所 (旧舞鶴鎮守府司令長官官舎)
4-5	ジャパンマリンユナイテッド(株)舞鶴事業所施設(旧舞鶴鎮守府海軍工廠) 5-a 舞鶴館(本館) 5-b 第二倉庫(造兵機械場) 5-c 機械工場(鍛造工場) 5-d 複写室(第五材料倉庫) 5-e、f 第三陸機工場 (第一、第二製缶場) 5-g 第 4 修理工場(現図場) 5-h 第二機械工場(外業工場) 5-i 第 1 機械工場(機械工場及び組立工場) 5-j 第 2 電気工場(発電場) 5-k 2 号ドック(第一船渠) 5-l 3 号ドック(第二船渠)
4-6	海上自衛隊舞鶴警備隊正門(旧舞鶴鎮守府西門)
4-7a	海上自衛隊舞鶴地方総監部 大講堂及び海軍記念館収蔵資料 (旧海軍機関学校大講堂及び鎮守府関係資料)
4-7 -b、-c	海上自衛隊舞鶴地方総監部 第一庁舎及び第四術科学校校舎(旧海軍機関学校庁舎及び生徒館)
4-8	市道北吸・桃山線 北吸トンネル(旧軍港引込線北吸隧道)
4-9	旧北吸浄水場配水池施設(舞鶴旧鎮守府水道施設) 9-a 旧北吸浄水場 第一配水池 9-b 同 第二配水池
4-10a	舞鶴市水道施設 桂 貯水池 (舞鶴旧鎮守府水道施設 桂 取水堰堤)
4-10b	舞鶴市水道施設岸谷貯水池 (舞鶴旧鎮守府水道施設 岸谷川下流取水堰堤)
4-11	艦船名を名付けた市街地「新舞鶴市街図」
4-12	艦船名を名付けた市街地の景観
4-13	鎮守府周辺の石積護岸
4-14	JR 舞鶴線隧道・橋梁施設 (官設舞鶴線隧道・橋梁施設)

4-15a	J R 小浜線施設松尾寺駅（旧国鉄小浜線松尾寺停車場）
4-16a	京都丹後鉄道宮舞線隧道・橋梁施設由良川橋梁(旧国鉄峰山線由良川橋梁)
4-17	旧岡田橋
4-18	舞鶴市槇山公園(旧舞鶴要塞槇山砲台跡) 他に浦入砲台跡、葦谷砲台跡、金岬砲台跡、建部山堡壘砲台跡、吉坂堡壘砲台跡、砲兵大隊正門跡
4-19	神崎煉瓦ホフマン式輪窯 ^{りんよう} 及び湊十二社手洗所(旧京都竹村丹後製所窯所煉瓦窯)
4-20	旧市長公舎（旧海軍北吸 ^{きたすい} 乙号官舎）
4-21	旧飯野寅吉邸
4-20	「海軍割烹術 ^{かつぼうじゆつ} 参考書」復刻版／原本は海上自衛隊第四術科学学校所蔵

構成文化財一覧(横須賀市)

1-1 米海軍横須賀基地C1建物(旧横須賀鎮守府庁舎)

べいかいぐんよこすかきちC1たてももの(きゅうよこすかちんじゅふちようしゃ)



震災後に再建された大正建築様式を現在に伝える庁舎建築

指定等の状況	未指定 建造物
所有者	財務省(提供財産として米海軍が使用)
所在地	横須賀市稲岡町
交通	京浜急行「横須賀中央」下車徒歩10分
見学	不可

第一海軍区を管轄した鎮守府の庁舎。関東大震災で被災したれんが造の庁舎に代わり大正15年に建設された鉄骨造の2代目庁舎。海軍の技術力を証明する日本最初の耐震建築です。

1-2 米海軍横須賀基地C2建物(旧横須賀鎮守府会議所・横須賀海軍艦船部庁舎)

べいかいぐんよこすかきちC2たてももの(きゅうよこすかちんじゅふかいぎしよ・よこすかかいぐんていせんぶちようしゃ)



装飾性に富み海軍の威信を感じる庁舎建築

指定等の状況	未指定 建造物
所有者	財務省(提供財産として米海軍が使用)
所在地	横須賀市稲岡町
交通	京浜急行「横須賀中央」下車徒歩10分
見学	不可

鎮守府の関連施設で、昭和9年建設の鉄骨造2階建て。震災後の建築としては装飾性に富み、海軍の威信を感じます。正面入口に「横須賀鎮守府会議所」と「横須賀海軍艦船部」の表札が今も残っています。

1-3 米海軍横須賀基地B39建物(旧横須賀海軍工廠庁舎)

べいかいぐんよこすかきちB39たてももの(きゅうよこすかかいぐんこうしょうちようしゃ)



震災復興と海軍の技術力を示す昭和初期の耐震建築

指定等の状況	未指定 建造物
所有者	財務省(提供財産として米海軍が使用)
所在地	横須賀市楠ヶ浦町
交通	京浜急行「横須賀中央」下車徒歩10分
見学	不可

海軍工廠の入口に所在した庁舎。この建物もれんが造に代わる2代目で、震災復興は4市の中でも横須賀市の特徴です。海軍の技術力を示す日本最初期の耐震建築(昭和2年建設)。

構成文化財一覧(横須賀市)

1-4 海上自衛隊横須賀地方総監部田戸台分庁舎(旧横須賀鎮守府司令長官官舎)

かいじょうじえいたいよこすかちほうそうかんぶたどだいぶんちようしゃ (きゅうよこすかちんじゅふしれいちようかんかんしゃ)



大正2年、桜井小太郎設計により竣工した鎮守府長官官舎

指定等の状況	未指定 建造物
所有者	海上自衛隊
所在地	横須賀市田戸台90
交通	京浜急行「県立大学」下車徒歩10分
見学	不可 (一般開放日あり)

歴代の鎮守府司令長官の官舎。
東京湾を一望する丘の上に建つ。大正2年、桜井小太郎の設計で建設し、洋館と和館からなる当時の建築デザインの水準を示す建物です。

1-5 逸見波止場衛門

へみはとばえいもん



横須賀軍港の入口に立つ衛兵の詰所

指定等の状況	市民文化遺産 建造物
管理者	横須賀市
所在地	横須賀市汐入町1-1 (ヴェルニー公園内)
交通	J R「横須賀」下車徒歩2分
見学	可

軍港の歴史と面影を伝える旧横須賀軍港逸見門の衛兵詰所。明治末から大正初期に建設された2棟の建物には「逸見上陸場」、「軍港逸見門」の表示板が残っています。

1-6 東京湾要塞跡

とうきょうわんようさいあと



猿島砲台跡

首都東京と横須賀軍港等を防衛する陸軍の沿岸砲台群

指定等の状況	国史跡
指定年月日	平成27年(2015年)3月10日

猿島砲台跡(さるしまほうだいあと)

所有者	横須賀市
所在地	横須賀市猿島1
交通	京浜急行「横須賀中央」徒歩10分、猿島航路「三笠桟橋」乗船10分
見学	可



千代ヶ崎砲台跡

千代ヶ崎砲台跡(ちよがさきほうだいあと)

所有者	防衛省
所在地	横須賀市西浦賀6-17-1 他
交通	京浜急行「浦賀」または「京急久里浜」から京急バスで「燈明堂入口」下車徒歩11分
見学	不可(見学会等あり)

首都及び軍港を守る東京湾要塞(20の砲台・堡壘(ほうるい)・海堡(かいほう))のうちの2砲台。着工年が明治14年と明治25年で、11年の開きがある両砲台では、切り石やれんがの積み方、コンクリート使用の有無など、建築技術の推移がわかります。

構成文化財一覧(横須賀市)

1-7 観音崎・走水地区の砲台群

かんのんざき・はしりみずちくのほうだいぐん



観音崎砲台第一砲台跡

東京湾の湾口部を守る砲台群で、日本最古の近代要塞

指定等の状況	未指定 建造物
--------	---------

観音崎砲台第一砲台跡（かんのんざきほうだいいちほうだいあと）

所有者	神奈川県
所在地	横須賀市走水1（県立観音崎公園内）
交通	JR「横須賀」・京浜急行「堀ノ内」「浦賀」から京急バス「観音崎」下車
見学	可



走水低砲台跡

走水低砲台跡（はしりみずほうだいあと）

所有者	横須賀市
所在地	横須賀市走水2-698（旗山崎公園内）
交通	京急バス「走水上町」下車徒歩3分
見学	可（ガイド付きツアーのみ）

首都及び軍港を守る東京湾要塞のうち、東京湾口に位置する。観音崎第一砲台は、明治13年に起工、明治17年に竣工した西洋の築城技術による日本最初の砲台。時代の異なる砲台が東京湾防衛の歴史を解き明かします。

1-8 東京湾第三海堡構造物(兵舎)

とうきょうわんだいさんかいほうこうぞうぶつ（へいしゃ）



東京湾要塞を構成する砲台の一つ第三海堡の構造物

指定等の状況	市有形 歴史資料
指定年月日	平成21年（2009年）3月10日
所有者	横須賀市
所在地	横須賀市平成町（うみかぜ公園内）
交通	京浜急行「県立大学」下車徒歩20分
見学	可

首都及び軍港を守る3基の海堡(かいほう)（人工島に火砲(かほう)を設置した海上砲台）の一つ。関東大震災で水没した構造物を引き上げ市内2カ所で展示。鉄筋コンクリートの採用など当時の建築技術の高さを示しています。

1-9 「ヨコスカ製鉄所」「ヨコスカ造船所」刻印れんが

「よこすかせいてつじょ」「よこすかぞうせんじょ」こくいんれんが



（上：ヨコスカ製鉄所、下：ヨコスカ造船所）

フランス規格の国産最古級赤れんが

指定等の状況	未指定
所有者	横須賀市
所在地	横須賀市久里浜8-642 生涯学習課文化財整理室
交通	京浜急行「久里浜」下車徒歩10分
見学	可（要事前申し込み）

横須賀製鉄所創設にあたり所内で生産された国産最古級の赤れんが。フランスの規格による建築用れんがで、軍港界限には木骨れんが造の造船関連施設が建ち並んでいました。

構成文化財一覧(横須賀市)

1-10 スチームハンマー(旧横須賀製鉄所設置) すちーむはんまー (きゅうよこすかせいてつじょせつち)



3トン門型

横須賀製鉄所開設に伴い輸入された産業遺産

指定等の状況	国重文 歴史資料
指定年月日	平成10年(1998年) 6月30日 (追加) 平成15年(2003年) 5月29日
所有者	横須賀市
所在地	横須賀市東逸見町1-1 (ヴェルニー記念館)
交通	J R「横須賀」下車徒歩1分
見学	可

1865年の横須賀製鉄所創設と共にオランダから輸入した艦艇の建造・修理のための鍛造(たんぞう)機械。以後の継続的な近代造船の第一歩を記す遺産で、0.5トン片持形と3トン門型があり、3トン門型は平成8年まで約130年間稼働していました。

1-11 米海軍横須賀基地1号～3号ドック(旧横須賀造船所第一号～第三号船渠) べいかいぐんよこすかきち1ごう～3ごうどく (きゅうよこすかぞうせんじょだいいちごう～だいさんごうせんきょ)

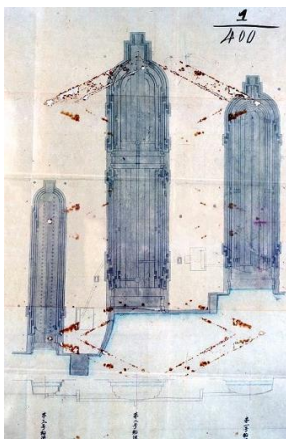


横須賀製鉄所～海軍工廠時代のドライドック

指定等の状況	未指定 建造物
所有者	財務省(提供財産として米海軍が使用)
所在地	横須賀市楠ヶ浦町
交通	京浜急行「横須賀中央」下車徒歩10分
見学	不可

軍港の景観を特徴付ける艦艇修理用のドライドック(船渠)。石造ドック(1～3号)からコンクリート造ドック(4～6号)へと技術の推移やドックの大型化＝艦艇の巨艦化がわかります。

1-12 近代造船所建築図面資料「第一号～第三号船渠配置図」 きんだいぞうせんじょけんちくずめんしりょう「だいいちごう～だいさんごうせんきょはいちず」



横須賀造船所ほか近代造船所に関する建築図面など230点

指定等の状況	市有形 歴史資料
指定年月日	平成20年(2008年) 3月10日
所有者	横須賀市(横須賀市自然・人文博物館)
所在地	横須賀市深田台95
交通	京浜急行「横須賀中央」下車徒歩10分
見学	資料の一部を常設展示 9時～17時開館 月曜日・年末年始休館

海軍の技術力に関する資料で、西洋の造船技術を日本人がどのように吸収し、表現したかを物語っています。横須賀造船所の技手(ぎて)が所蔵していたもので、呉港、佐世保港などの資料を含んでいます。

構成文化財一覧(横須賀市)

1-13 走水水源地 はしりみずすいげんち



煉瓦造貯水池

煉瓦造貯水池(れんがづくりちよすいち) 明治35年に竣工したれんが造の上屋付き貯水池

指定等の状況	国登録 建造物
指定年月日	平成12年(2000年) 2月15日
所有者	横須賀市上下水道局
所在地	横須賀市走水1-1-26
交通	京浜急行「馬堀海岸」下車徒歩20分、京急バス「伊勢町」下車徒歩2分
見学	国道に面しているため、車・歩行者に注意



鉄筋コンクリート造浄水池

鉄筋コンクリート造浄水池(てつきんこんくりーとづくりじょうすいち) 我が国最初期の鉄筋コンクリート造建物

指定等の状況	国登録 建造物
指定年月日	平成12年(2000年) 2月15日
所有者	横須賀市上下水道局
所在地	横須賀市走水1-1-26
交通	京浜急行「馬堀海岸」下車徒歩20分、京急バス「伊勢町」下車徒歩2分
見学	不可(見学会あり)

軍港水道走水系統は、明治9年、横須賀造船所まで7kmに土管を敷設したことに始まります。半原(はんばら)系統の整備に伴い、市民への給水に転換。水源地としては珍しく海を臨む低地にあります。

1-14 逸見浄水場 へみじょうすいじょう



緩速ろ過池調整室

緩速ろ過池調整室(かんそくろかちちようせいしつ) 横須賀軍港水道として建設された逸見浄水場

指定等の状況	国登録 建造物
指定年月日	平成17年(2005年) 7月12日
所有者	横須賀市上下水道局
所在地	横須賀市西逸見町2-10
交通	京浜急行「逸見」下車徒歩20分
見学	不可(見学会あり)



配水池入口

配水池入口(はいすいちいりぐち) 逸見浄水場のシンボルである白亜の塔

指定等の状況	国登録 建造物
指定年月日	平成17年(2005年) 7月12日
所有者	横須賀市上下水道局
所在地	横須賀市西逸見町2-10
交通	京浜急行「逸見」下車徒歩20分
見学	不可(見学会あり)

相模川上流(神奈川県愛川町半原(はんばら))を水源とする軍港水道半原系統の横須賀市側浄水池。水の安定供給を目的に明治45年に着工。軍港を見下ろす丘の上にあり、鉄筋コンクリート造の配水池入口は白亜の塔として往時の姿を伝えています。

構成文化財一覧(横須賀市)

1-15 七釜トンネル しつかまとんねる



明治期・大正期・昭和期のトンネルが3本並ぶ独特な景観

指定等の状況	未指定 建造物
所有者	J R 東日本株式会社ほか
所在地	田浦町・田浦港町
交通	J R 「田浦」下車徒歩0分
見学	可（田浦駅ホームより遠望のみ）

明治22年開通の横須賀線のトンネル。鉄道敷設当初のトンネル（中央）と複線化による大正期（右）、海軍施設への引き込み線用の昭和期（コンクリート造、左）の3本が並んでいます。全国一トンネルの多いまち横須賀を代表するトンネル景観です。

1-16 横須賀港周辺の絵図(横須賀港一覧繪圖明治12年官許 銅版画) よこすかこうしゅうへんのえず (よこすかこういちらんえず めいじ12ねんかんきょ どうはんが)

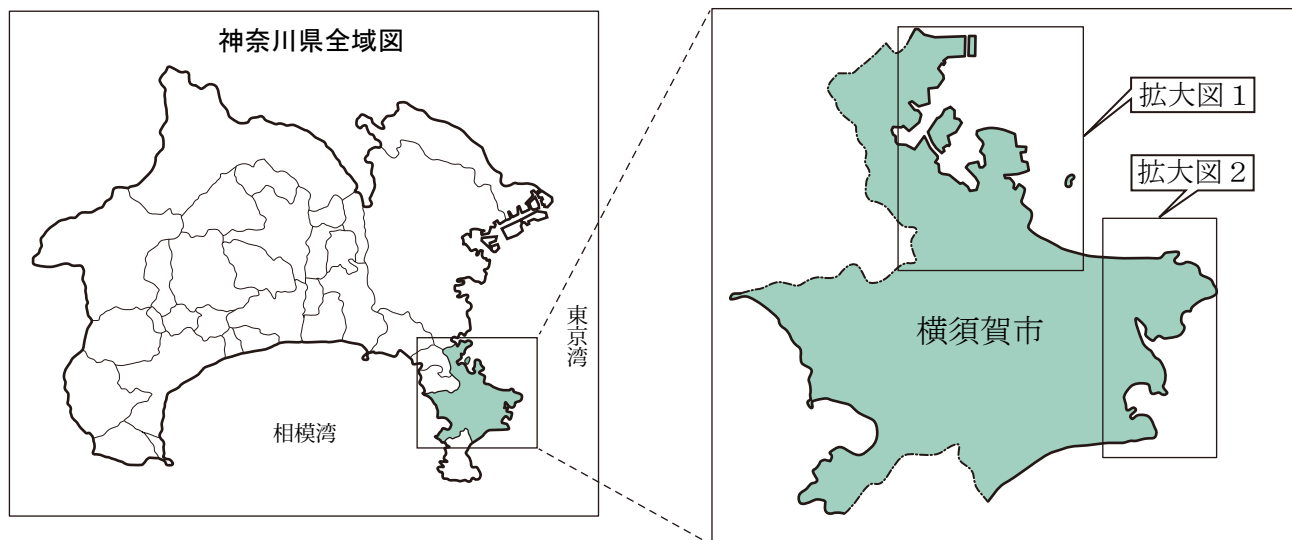


横須賀軍港とまちの発展を今に伝える絵図

指定等の状況	未指定 歴史資料
所有者	横須賀市
所在地	深田台95（横須賀市自然人文博物館）
交通	京急急行「横須賀中央」下車徒歩10分
見学	特別展開催時等で見学可

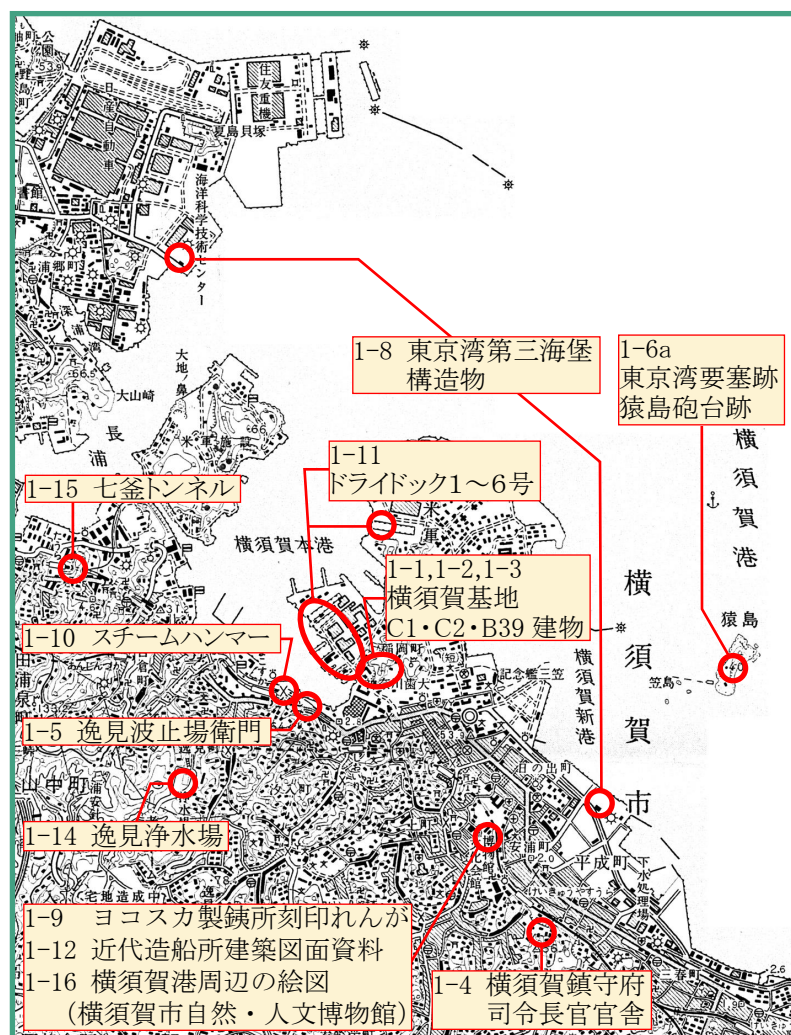
軍港とまちの発展を伝える絵図で、明治12年から明治39年までに刊行された当時の観光マップ。「横須賀港一覧繪圖(えず)」「横須賀明細式覽図(いちらんず)」など現在9版が確認されています。

構成文化財の位置図（横須賀市）



拡大図 1

拡大図 2



報道発表

平成28年4月20日

平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」の認定結果の発表について

平成28年4月19日(火)に開催された「日本遺産審査委員会」の審議を経て別紙1の19件を平成28年度の「日本遺産(Japan Heritage)」に認定しましたのでお知らせします。

詳しくは、以下の資料を参照願います。

別紙1 平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定一覧

別紙2 平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定概要

別紙3 平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」申請一覧

別紙4 日本遺産(Japan Heritage)」について

別紙5 日本遺産審査委員会委員一覧

<担当> 文化庁文化財部記念物課

課長	加藤 弘樹 (内線 2873)
課長補佐	田中 康成 (内線 3101)
専門官	中村 崇志 (内線 2874)
企画調整係	吉田 尊徳 (内線 4768)
	宮本 隆行 (内線 4768)
	川口 武彦 (内線 4768)

電話：03-5253-4111 (代表)
03-6734-4760 (直通)

平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定一覧

No	都道府県	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	宮城県	◎宮城県 (仙台市, 塩竈市, 多賀城市, 松島町)	政宗が育んだ“伊達”な文化
2	山形県	◎山形県 (鶴岡市, 西川町, 庄内町)	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木 につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
3	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・ 下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・ 西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂 下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三 島町・金山町・昭和村	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往事の会津の文化～
4	福島県	◎郡山市・猪苗代町	未来を拓いた「一本の水路」―大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌 跡 郡山・猪苗代―
5	千葉県	◎千葉県 (佐倉市, 成田市, 香取市, 銚子市)	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」―佐倉・成田・ 佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並 み群―
6	神奈川県	伊勢原市	江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
7	神奈川県	鎌倉市	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
8	新潟県	◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・ 津南町	「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
9	石川県	小松市	『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
10	長野県	◎南木曽町・大桑村・上松町・木曽町・ 木祖村・王滝村・塩尻市	木曽路はすべて山の中 ～ 山を守り 山に生きる ～
11	岐阜県	高山市	飛騨匠の技・こころ ―木とともに、今に引き継ぐ1300年―
12	兵庫県	◎淡路市・洲本市・南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海 人の営み～
13	奈良県	◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下 北山村・上北山村・川上村・東吉野村	森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥 の地“吉野”～
14	和歌山県	◎和歌山県 (新宮市, 那智勝浦町, 太地町, 串本 町)	鯨とともに生きる
15	鳥取県	◎大山町・伯耆町・江府町・米子市	地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
16	島根県	◎雲南市・安来市・奥出雲町	出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～
17	広島県・神奈川県・ 長崎県・京都府	◎呉市(広島県)・横須賀市(神奈川 県)・佐世保市(長崎県)・舞鶴市(京都 府)	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できる まち～
18	愛媛県・広島県	◎今治市(愛媛県)・尾道市(広島県)	“日本最大の海賊”の本拠地:芸予諸島―よみがえる村上海賊 “Murakami KAIZOKU”の記憶―
19	佐賀県・長崎県	◎佐賀県 (唐津市, 伊万里市, 武雄市, 嬉野市, 有田町) 長崎県 (佐世保市, 平戸市, 波佐見町)	日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～

平成 28 年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定概要

① ◎宮城県（仙台市，塩竈市，多賀城市，松島町）

※◎印は代表自治体（以下同）

《政宗が育んだ“伊達”な文化》

（ストーリーの概要）

仙台藩を築いた伊達政宗は，戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが，時代を代表する文化人でもあり，文化的にも上方に負けない気概で，自らの“都”仙台を創りあげようとした。

政宗は，その気概をもって，古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で，伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に，上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛，政宗の個性ともいうべき意表を突く粋な斬新さ，さらには海外の文化に触発された国際性，といった時代の息吹を汲み取りながら，これまでにない新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。

そして，その文化は政宗だけに留まらず，時代を重ねるにつれ，後の藩主に，さらには仙台から全国へ，そして武士から庶民にまで，さまざまな方面へ広がり，定着し，熟成を加えていった。



【大崎八幡宮】

② ◎山形県（鶴岡市，西川町，庄内町）

《自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～》

（ストーリーの概要）

山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では，羽黒山は人々の現世利益を叶える現在の山，月山はその高く秀麗な姿から祖霊が鎮まる過去の山，湯殿山はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山と言われます。

三山を巡ることは，江戸時代に庶民の間で『生まれかわりの旅』として広がり，地域の人々に支えられながら，日本古来の，山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。羽黒山の杉並木につつまれた石段から始まるこの旅は，訪れる者に自然の霊気と自然への畏怖を感じさせ，心身を潤し明日への新たな活力を与えます。



【羽黒山の石段と杉並木】

③ ◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・西会津町・
磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村
(福島県)

《会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往事の会津の文化～》

(ストーリーの概要)

磐梯山信仰を取り込み東北地方で最も早く仏教文化が花開いた会津は、今も平安初期から中世、近世の仏像や寺院が多く残り「仏都会津」とよばれる。その中でも三十三観音巡りは、古来のおおらかな信仰の姿を今に残し、広く会津の人々に親しまれている。

会津藩祖、名君保科正之が定めた会津三十三観音巡りは広く領民に受け入れられ、のちに様々な三十三観音がつくられた。会津の三十三観音は、国宝を蔵する寺院から山中に佇むひなびた石仏までいたるところにその姿をとどめており、これら三十三観音を巡った道を、道中の宿場や門前町で一服しながらたどることで、往時の会津の人々のおおらかな信仰と娯楽を追体験することができるのである。



【史跡慧日寺跡】

④ ◎郡山市・猪苗代町（福島県）

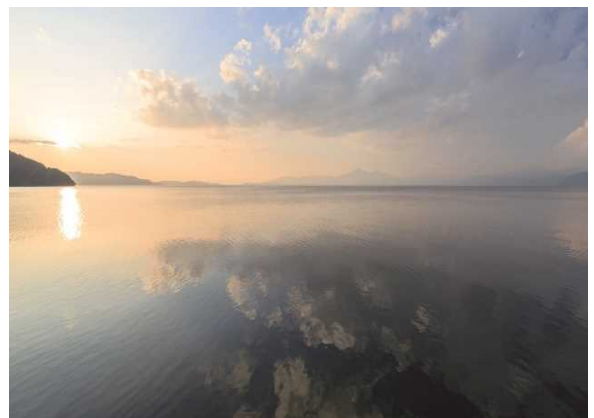
《未来を拓いた「一本の水路」—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—》

(ストーリーの概要)

明治維新後、武士の救済と、新産業による近代化を進めるため、安積地方の開拓に並々ならぬ想いを抱いていた大久保利通。夢半ばで倒れた彼の想いは、郡山から西の天空にある猪苗代湖より水を引く「安積開拓・安積疏水開さく事業」で実現した。

奥羽山脈を突き抜ける「一本の水路」は、外国の最新技術の導入、そして、この地域と全国から人、モノ、技を結集し、苦難を乗り越え完成した。この事業は、猪苗代湖の水を治め、米や鯉など食文化を一層豊かにし、さらには水力発電による紡績等の新たな産業の発展をもたらした。

未来を拓いた「一本の水路」は、多様性と調和し共生する風土と、開拓者の未来を想う心、その想いが込められた桜とともに、今なおこの地に受け継がれている。



【猪苗代湖】

⑤ ◎千葉県（佐倉市，成田市，香取市，銚子市）

≪「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」－佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群－≫

（ストーリーの概要）

北総地域は，百万都市江戸に隣接し，関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に，利根川東遷により発達した水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し，江戸のくらしや経済を支えた。こうした中，江戸文化を取り入れることにより，城下町の佐倉，成田山の門前町成田，利根水運の河岸，香取神宮の参道の起点の佐原，漁港・港町，そして磯巡りの観光客で賑わった銚子という4つの特色ある都市が発展した。

これら四都市では，江戸庶民も訪れた4種の町並みや風景が残り，今も東京近郊にありながら江戸情緒を体感することができる。

成田空港からも近いこれらの都市は，世界から一番近い「江戸」といえる。



【〈左上〉佐倉市武家屋敷）・〈左下〉成田山門前町（大野屋）・〈右上〉佐原の山車行事・〈右下〉銚子市外川の町並み】

⑥ 伊勢原市（神奈川県）

≪江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～≫

（ストーリーの概要）

大山詣りは，鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び，滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった，他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ，また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を呼び起こし，江戸の人口が100万人の頃，年間20万人もの参拝者が訪れた。

大山詣りは，今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り，山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき，大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。



【浮世絵：歌川豊国「大當大願成就有が瀧壺」文久3（1863）年】

⑦ 鎌倉市（神奈川県）

《「いざ、鎌倉」 ～ 歴史と文化が描くモザイク画のまちへ ～》

（ストーリーの概要）

鎌倉は、源頼朝によって幕府が開かれた後、急速に都市整備が進められ、まちの中心には鶴岡八幡宮、山には切通、山裾には禅宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。

この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、近代には多くの別荘が建てられたが、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられてきた。

このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。



【鎌倉文学館】

⑧ ◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・津南町（新潟県）

《「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化》

（ストーリーの概要）

日本一の大河・信濃川の流域は、8000年前に気候が変わり、世界有数の雪国となった。この雪国から5000年前に誕生した「火焰型土器」は大仰な4つの突起があり、縄文土器を代表するものである。火焰型土器の芸術性を発見した岡本太郎は、この土器を見て「なんだ、コレは！」と叫んだという。火焰型土器を作った人々のムラは信濃川流域を中心としてあり、その規模と密集度は日本有数である。このムラの跡に佇めば、5000年前と変わらぬ独特の景観を追体験できる。また、山・川・海の幸とその加工・保存の技術、アンギン、火焰型土器の技を継承するようなモノづくりなど、信濃川流域には縄文時代に起源をもつ文化が息づいている。火焰型土器は日本文化の源流であり、浮世絵、歌舞伎と並ぶ日本文化そのものである。



【国宝笹山遺跡出土火焰型土器】

⑨ 小松市（石川県）

《『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～》

（ストーリーの概要）

小松の人々は、弥生時代の碧玉の玉づくりを始まりとして 2300 年にわたり、金や銅の鉱石、メノウ、オパール、水晶、碧玉の宝石群、良質の凝灰岩石材、九谷焼原石の陶石などの石の資源を見出し、時代のニーズに応じて、現代の技術をもってしても再現が困難な高度な加工技術を磨き上げ、ヤマト王権の諸王たちが権威の象徴として挙って求めるなど、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築き上げてきている。



【八日市地方遺跡の玉づくり】

⑩ ◎南木曽町・大桑村・上松町・木曽町・木祖村・王滝村・塩尻市（長野県）

《木曽路はすべて山の中 ～ 山を守り 山に生きる ～》

（ストーリーの概要）

戦国時代が終わり新たな町づくりがすすめられると、城郭・社寺建築の木材需要の急増は全国的な森林乱伐をもたらした。森林資源が地域の経済を支えていた木曽谷も江戸時代初期に森林資源の枯渇という危機に陥る。所管する尾張藩は、禁伐を主体とする森林保護政策に乗り出し、木曽谷の人々は、新たな地場産業に暮らしの活路を見出した。

そして、江戸時代後期、木曽漆器などの特産品は、折しも街道整備がすすみ増大した御嶽登拝おんたけとはいの人々などによって、宿場から木曽路を辿り全国に広められた。

江戸時代、全国に木曽の名を高めた木曽檜きや木曽馬そうま、木曽漆器など伝統工芸品は、今も木曽谷に息づく木曽の代名詞である。



つまごじゆく
【妻籠宿 保存地区】

⑪ 高山市（岐阜県）

《飛騨匠の技・こころ ―木とともに、今に引き継ぐ1300年―》

（ストーリーの概要）

「飛騨工制度」は古代に木工技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で、飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっている。市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸など、現在も様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができる。

これは私たちが木と共に生きてきた 1300 年の高山の歴史を体感する物語である。



うんりゅうじしょうろうもん
【雲龍寺 鐘 楼門】

⑫ ◎淡路市・洲本市・南あわじ市（兵庫県）

《『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」 ～古代国家を支えた海人の営み～》

（ストーリーの概要）

わが国最古の歴史書『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」。この壮大な天地創造の神話の中で最初に誕生する“特別な島”が淡路島である。その背景には、新たな時代の幕開けを告げる金属器文化をもたらし、後に塩づくりや巧みな航海術で畿内の王権や都の暮らしを支えた“海人”^{あま}と呼ばれる海の民の存在があった。畿内の前面に浮かぶ瀬戸内最大の島は、古代国家形成期の中枢を支えた“海人”^{あま}の歴史を今に伝える島である。



【渦潮】



【国生み絵】

⑬ ◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村（奈良県）

《森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～》

（ストーリーの概要）

我が国造林発祥の地である奈良県吉野地域には、約500年にわたり培われた造林技術により育まれた重厚な深緑の絨毯の如き日本一の人工の森と、森に暮らす人々が神仏坐す地として守り続ける野趣溢れる天然の森が、訪れる人々を圧倒する景観で迎えてくれる。

ここに暮らす人々が、それらの森を長きに亘って育み、育まれる中で作り上げた食や暮らしの文化が今に伝わり、訪れる者はそれを体感して楽しむことができる。



しもたこ
【下多古村有林】

⑭ ◎和歌山県（新宮市、那智勝浦町、太地町、串本町）

《鯨とともに生きる》

（ストーリーの概要）

鯨は、日本人にとって信仰の対象となる特別な存在であった。人々は、大海原を悠然と泳ぐ巨体を畏れたものの、時折浜辺に打ち上げられた鯨を食料や道具の素材などに利用していたが、やがて生活を安定させるため、捕鯨に乗り出した。

熊野灘沿岸地域では、江戸時代に入り、熊野水軍の流れを汲む人々が捕鯨の技術や流通方法を確立し、これ以降、この地域は鯨に感謝しつつ捕鯨とともに生きてきた。当時の捕鯨の面影を残す旧跡が町中や周辺に点在し、鯨にまつわる祭りや伝統芸能、食文化が今も受け継がれている。



【太地のくじら踊】

⑮ ◎大山町・^{ほうき}伯耆町・^{こうふ}江府町・米子市（鳥取県）

《地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市》

（ストーリーの概要）

大山の山頂に現れた万物を救う地蔵菩薩への信仰は、平安時代末以降、牛馬のご加護を願う人々を大山寺に集めた。江戸時代には、大山寺に庇護され信仰に裏打ちされた全国唯一の「大山牛馬市」が隆盛を極め、明治時代には日本最大の牛馬市へと発展した。

西国諸国からの参詣者や牛馬の往来で賑わった大山道沿いには、今も往時を偲ぶ石畳道や宿場の町並み、所子に代表される農村景観、「大山おこわ」など独特の食文化、大山の水にまつわる「もひとり神事」などの行事、風習が残されている。ここには、人々が日々「大山さんのおかげ」と感謝の念を捧げながら大山を仰ぎ見る暮らしが息づいている。



【大山】

⑯ ◎雲南市・^{やすぎ}安来市・奥出雲町（島根県）

《出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～》

（ストーリーの概要）

日本古来の鉄づくり「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では、今日もなお世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けています。たたら製鉄は、優れた鉄の生産だけでなく、原料砂鉄の採取跡地を広大な稲田に再生し、燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという、人と自然とが共生する持続可能な産業として日本社会を支えてきました。また、鉄の流通は全国各地の文物をもたらし、都のような華やかな地域文化をも育みました。

今もこの地は、神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の物語が終わることなく紡がれています。



【たたら製鉄】

⑪ ◎呉市（広島県）・横須賀市（神奈川県）・佐世保市（長崎県）・舞鶴市（京都府）

《鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～》

（ストーリーの概要）

明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。



【〈左上〉 呉鎮守府司令長官官舎（呉市）・〈左下〉 東京湾要塞跡猿島砲台跡（横須賀市）・〈右上〉 旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設（佐世保市）・〈右下〉 舞鶴赤れんがパーク（舞鶴旧鎮守府倉庫施設）（舞鶴市）】

⑫ ◎今治市（愛媛県）・尾道市（広島県）

《“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島ーよみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶ー》

（ストーリーの概要）

戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。



【能島城跡】

⑱ ◎佐賀県（唐津市，伊万里市，武雄市，嬉野市，有田町）・長崎県（佐世保市，平戸市，波佐見町）

《日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～》

（ストーリーの概要）

陶石，燃料（山），水（川）など窯業を営む条件が揃う自然豊かな九州北西部の地「肥前」で，陶器生産の技を活かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では，互いに切磋琢磨しながら，個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し，我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに，海外からも賞賛された。

今でも，その技術を受け継ぎ特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。この地は，歴史と伝統が培った技と美，景観を五感で感じることできる磁器のふるさとである。



【〈上〉 柿右衛門（濁手）・〈下〉 大川内山の町並み】

平成28年度「日本遺産(Japan Heritage)」申請一覧

別紙3

No	都道府県	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	青森県	青森市	青森港を中心とした近世からの都市計画～大火・戦災の記憶とともに～
2	青森県	◎八戸市・階上町	ヤマセと馬が生んだ風俗と景観
3	宮城県	◎宮城県 (仙台市、塩竈市、多賀城市、松島町)	政宗が育んだ“伊達”な文化
4	秋田県	◎大仙市・仙北市・美郷町	豊穡を願う雪国のまつりと水への祈り～美田・美酒・美人の郷「あきた仙北平野」～
5	秋田県	◎秋田県 (北秋田市、能代市、男鹿市、秋田市、由利本荘市、にかほ市、大仙市、横手市、湯沢市、美郷町)	菅江真澄が記した江戸時代の秋田ーあきた今昔ものがたりー
6	山形県	◎山形県 (鶴岡市、西川町、庄内町)	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
7	山形県	鶴岡市	教学の精神が育てた城下町鶴岡 ～ 藩校致道館と松ヶ岡開墾場
8	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して親た往事の会津の文化～
9	福島県	◎郡山市・猪苗代町	未来を拓いた「一本の水路」ー大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡郡山・猪苗代ー
10	栃木県	日光市	はじめて物語 足尾 日本初がある銅の町
11	群馬県	甘楽町	水が流れる織田の城下町 ー街の生き字引「雄川堰」ー
12	埼玉県	行田市	忍の水物語 ～“浮き城”と呼ばれた忍城と足袋のまち行田～
13	埼玉県	◎春日部市・久喜市・幸手市・杉戸町・松伏町・吉川市・三郷市・八潮市	埼玉県東部地域の水路と水田文化 ー葛西用水路と周辺水路・水辺の歴史の生き証人ー
14	埼玉県	◎川越市・新座市・三芳町	武蔵野を拓く！ 江戸に最も近い川越藩の挑戦
15	千葉県	◎千葉県 (佐倉市、成田市、香取市、銚子市)	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」ー佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群ー
16	東京都	◎国分寺市・府中市	日本一広い国府と国分寺 ～徳川家康が崇敬した古代武蔵のまちづくり～
17	神奈川県	伊勢原市	江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
18	神奈川県	鎌倉市	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
19	新潟県	◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・津南町	「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
20	富山県	南砺市	日本に誇る民謡の宝庫「なんと」～唄い踊り継がれる歴史と伝統～
21	石川県	小松市	『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
22	石川県	金沢市	きらめく金箔 ～黄金の国ジバングを支える金沢～
23	福井県	大野市	湧水と共に暮らしてきた城下町 越前大野 ～ 大野人が守り続けた水文化 ～
24	福井県	◎福井県 (福井市、勝山市)	蘇る中世越前の威風 ～戦国にいざなう ー乗谷と白山平泉寺～
25	山梨県	◎山梨県 (甲府市、富士吉田市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、笛吹市、甲州市、身延町、南部町、富士河口湖町)	世界に知られた甲斐国の王 信玄ーフォッサ・マグナが生んだ戦国の名将とその遺産群
26	長野県	長野市	ご縁を結ぶ地-長野 ～善光寺と戸隠-戦国の戦乱から復興を遂げた日本一の門前町～
27	長野県	◎南木曽町・大桑村・上松町・木曽町・木祖村・王滝村・塩尻市	木曽路はすべて山の中 ～ 山を守り 山に生きる ～
28	岐阜県	高山市	飛騨匠の技・こころ ー木とともに、今に引き継ぐ1300年ー
29	岐阜県	◎岐阜県 (大垣市、垂井町、関ヶ原町、養老町)	ここが東西出会いの地 関ヶ原
30	静岡県・愛知県	◎浜松市・静岡市・岡崎市	若き家康に出逢うまち～戦国大名・徳川家康の城下町、岡崎・浜松・静岡～
31	愛知県	◎愛知県 (名古屋市、犬山市、清須市、津島市、愛西市、あま市、蟹江町、半田市、常滑市、阿久比町、武豊町、岡崎市、碧南市、西尾市、豊田市)	「あいちde醸(かも)す」ーあいちの醸造文化を巡るー
32	愛知県	犬山市	城と城下町が紡ぐ町人文化 ー温故知新のまち 犬山ー

No	都道府県	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
33	愛知県	名古屋市長	尾張名古屋は堀川でもつー城下町名古屋に生命を吹き込み、育てた運河―
34	三重県	亀山市	神官を遙かに仰ぐ宿場町 関宿
35	滋賀県	長浜市	神を斎(いつく)観音霊場・竹生島 ～神仏習合の風土から発信するメッセージ～
36	滋賀県・三重県	◎甲賀市(滋賀県)・伊賀市(三重県)	―忍びの里 伊賀・甲賀― 忍者の真の姿を追え！
37	京都府	◎京都府 (宮津市、与謝野町)	天橋立 ～ 天に架ける橋と人々との出会い ～
38	大阪府	河内長野市	僧と民衆が創ったもう一つの中世的世界～奥河内にあった共和国・境内都市・民主政治～
39	大阪府	藤井寺市	巨大前方後円墳があるまち・藤井寺 ―土師氏の智恵と技術が遺した風景―
40	兵庫県	高砂市	神々の力が宿る石 ～古代から伝わる竜山石の文化の継承～
41	兵庫県	◎淡路市・洲本市・南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～
42	兵庫県	◎朝来市・姫路市・福崎町・市川町・神河町・養父市	近代日本の鉱山システムを生み出した、生野鉱山と馬車の道
43	奈良県	◎桜井市・天理市	日本麺食文化のルーツ 三輪素麺 ～三輪山の神の子孫がつくった伝統食が今も息づく 三輪・山の辺の地～
44	奈良県	◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
45	奈良県	◎奈良県 (奈良市、大和郡山市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、葛城市、宇陀市、斑鳩町、高取町、明日香村)	菓の発祥の地～知れば知るほどおもしろい奈良のくすり1400年の歴史～
46	和歌山県	◎和歌山県 (新宮市、那智勝浦町、太地町、串本町)	鯨とともに生きる
47	和歌山県	◎和歌山県(和歌山市、海南市)	御三家紀州徳川家の「父母状」を継承する街
48	鳥取県	◎大山町・伯耆町・江府町・米子市	地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
49	島根県	◎雲南市・安来市・奥出雲町	出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～
50	岡山県・福井県・愛知県・滋賀県・兵庫県	◎備前市(岡山県)・越前町(福井県)・瀬戸市・常滑市(愛知県)・甲賀市(滋賀県)・篠山市(兵庫県)	炎と土の結晶 ―日本六古窯―
51	岡山県	◎高梁市・倉敷市・新見市・備前市・真庭市・美咲町	幕末の「地方創生」―備中の儒学者山田方谷の改革―
52	広島県・神奈川県・長崎県・京都府	◎呉市(広島県)・横須賀市(神奈川県)・佐世保市(長崎県)・舞鶴市(京都府)	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～
53	山口県	岩国市	生まれかわる橋と受け継がれる匠の心～錦帯橋がつなぐ創造城下町～
54	徳島県・兵庫県	◎徳島県・鳴門市(徳島県)・南あわじ市(兵庫県)	鳴門海峡の恵み ～「潮」と「塩」の物語 ～
55	香川県	◎小豆島町・土庄町	海と大地の恵みを受けて、島びとの自普請が育んだ小豆島の近世食産業と文化 ～ 塩・醤油・素麺・農村歌舞伎 ～
56	愛媛県	松山市	“Haiku”の都・松山 俳句が織りなす文学の街
57	愛媛県	◎大洲市・内子町	河道を行く ～生命を生み出し、産業を育み、物や人を運ぶ道「肱川」～
58	愛媛県・広島県	◎今治市(愛媛県)・尾道市(広島県)	“日本最大の海賊”の本拠地・芸予諸島―よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶―
59	高知県	◎佐川町・土佐市・いの町・越知町・仁淀川町・日高村	清流・仁淀川が育む土佐和紙の産業文化と暮らしの風景
60	佐賀県・長崎県	◎佐賀県 (唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、有田町) 長崎県 (佐世保市、平戸市、波佐見町)	日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～
61	長崎県・佐賀県・福岡県	◎長崎市・諫早市・大村市(長崎県)・嬉野市・小城市・佐賀市(佐賀県)・飯塚市(福岡県)	長崎街道シュガーロード～スイーツの旅～
62	熊本県	◎山鹿市・玉名市・菊池市・和水町	天下第一の米作り ～菊池川流域 二千年の米作りの歴史～
63	大分県	◎豊後高田市・国東市	国東半島に咲いた六郷満山の大蓮華 ～耶馬から見る寺院と農村の交流史～
64	大分県	◎中津市・玖珠町	「巖石の王国」耶馬溪 ―100年前の自動車遊覧―
65	大分県・愛媛県	◎別府市(大分県)・松山市(愛媛県)	道後・別府の温泉文化遺産群～神話の時代からつながる2つの温泉地～
66	宮崎県	日南市	山の道から海の道へ～杉生産量日本一を生んだ「日向弁甲」のふるさと
67	宮崎県	◎西都市・西米良村	おらが殿様が今に伝えた、古からの優美な都文化・精神文化

※ 網掛けは平成28年度の「日本遺産(Japan Heritage)」に認定されたもの

「日本遺産 (Japan Heritage)」について

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。

1. 認定対象

- 日本遺産は、以下の点を踏まえたストーリーを認定する（文化財そのものが認定の対象となるわけではない）。
 - ・ 歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーであること。
 - ・ ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていること。
 - ・ 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。
- ストーリーのタイプとしては2種類
 - ・ 「地域型」…単一の市町村内でストーリーが完結。
 - ・ 「シリアル型（ネットワーク型）」…複数の市町村にまたがってストーリーが展開（複数の市町村に下記「ストーリーの構成文化財」が所在）。

2. ストーリーを語る上で不可欠な文化財群（ストーリーの構成文化財）

- 地域の魅力ある有形・無形の文化財群の一覧を作成するものとする。
- 構成文化財は、地域に受け継がれている有形・無形のあらゆる文化財を対象とし、地方指定や未指定の文化財も可能とする。
- 日本遺産のストーリーが我が国の文化・伝統を語るものであることから、文化財群の中に国指定・選定のものを必ず一つは含めることとする。

3. 認定申請の手続き

(1) 申請者

- 日本遺産の申請者は市町村とし、文化庁への申請は都道府県教育委員会を経由して行う。
- シリアル型の場合、原則として市町村の連名とするが、当該市町村が同一都道府県内に所在する場合は当該都道府県が申請者となることも可能。

(2) 認定申請を行うに当たっての条件

- 認定申請を行うことができるのは、歴史文化基本構想又は歴史的風致維持向上計画を策定済みの市町村、若しくは世界文化遺産一覧表記載案件又は世界文化遺産暫定一覧表記載・候補案件を有する市町村とする。
- 地域型の申請の場合は上記の条件が必須であるが、シリアル型の申請の場合は満たすことが望ましい。

(3) 認定の可否

- 認定可否は、文化庁に設置する外部有識者で構成される「日本遺産審査委員会」の審査結果を踏まえて、文化庁が決定する。

(4) 認定基準

- ストーリーの内容が、当該地域の際立った歴史的特徴・特色を示すものであるとともに我が国の魅力を十分に伝えるものとなっていること。
※ストーリーについては、以下の観点から総合的に判断する。
 - ・興味深さ（人々が関心を持ったり惹きつけられたりする内容となっているか。）
 - ・斬新さ（あまり知られていなかった点や隠れた魅力を打ち出しているか。）
 - ・訴求力（専門的な知識がなくても理解しやすい内容となっているか。）
 - ・希少性（他の地域ではあまり見られない稀有な点があるか。）
 - ・地域性（地域特有の文化が現れているか。）
- 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること。
- ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること。

日本遺産審査委員会委員一覧

◎稲葉 信子 筑波大学大学院教授

小山 薫堂 放送作家・映画脚本家

里中 満智子 漫画家

下村 彰男 東京大学大学院教授

丁野 朗 公益社団法人日本観光振興協会常務理事・総合研究所長

デービッド・アトキンソン 小西美術工藝社代表取締役社長

※ ◎印は委員長